

6-6					
主題	権利擁護向上委員会の活動（取組み）報告				
副題	高齢者の尊厳を守り、権利擁護を考える委員会の取組みと成果について				
キーワード 1	権利擁護	キーワード 2	なし	研究(実践)期間	27ヶ月

法人名・事業所名	社福) 池上長寿園 大田区立特別養護老人ホーム糶谷
発表者(職種)	山本恵(介護職員)、田村桃世(介護職員)
共同研究(実践)者	森繁樹(介護職員)、光武さおり(看護師)、石橋慎吾(生活相談員)

電 話	03-3745-3001	F A X	03-3745-3036
-----	--------------	-------	--------------

事業所紹介	法人の5番目の区立特養として平成8年5月1日開設しました。「利用者の思いを尊重し心に添ったケア」を基本方針とし、事業所全体で連携しケアの向上に取り組んでいます。併設施設としてデイサービスと地域包括支援センターがあり、地域に開かれた事業所として地域の皆様に親しまれています。
-------	--

《1. 研究(実践)前の状況と課題》

- ・高齢者虐待が増加傾向にあり、介護施設で働く職員にとっても身近な問題であり、不適切ケア防止への取組みは重要な課題となっている。
- ・当事業所では、平成24年に前身の「身体拘束ゼロ推進委員会」から、特養、デイサービス、地域包括支援センターの職員も参加する「権利擁護向上委員会」を立ち上げ、高齢者の尊厳を守り、権利擁護を考え、不適切ケア防止に継続した取組みを行なっている。
- ・委員会で全職員対象に実施している「虐待の芽(不適切ケア)チェックリスト」のチェックの多かった項目について職員アンケートを実施した。アンケートで多かった「他の職員が行っているサービス提供やケアに問題があることがあっても言えない」との意見から、いい事も気になる事も言い合える職場風土づくりが必要との事業所の課題が見えてきた。

《2. 研究(実践)の目的ならびに仮説》

1. 「権利擁護向上委員会」が中心となり、「いい事も気になる事も言い合える職場風土づくり」へ意見交換や提案を行い、実践を通して不適切ケア防止に取り組む。
2. 職員ひとり一人が高齢者の尊厳を守り、権利擁護を考え、適切なケアの提供、ケアの質の向上を目指す。
3. 職場環境の改善、ケアの質の向上を目指すことにより、職員のやりがいや職場への定着に繋がる。
4. 事業所全体での横断的な継続した取組みにより、事業所のチームワークや職場風土が構築できる。

《3. 具体的な取り組みの内容》

*「権利擁護向上委員会」の平成24年から現在までの取り組み

・スピーチロック調査（24・25年度）

実際にスピーチロックを使っていないかの調査を実施し、スピーチロック防止に取組んだ。
職員への意識づけを目的に、スピーチロック防止ポスターを作成し掲示した。

・不適切ケアチェック（26・27・29年度）

不適切ケアチェックリストを全職員に実施し、チェックの多い項目について職員アンケートを実施し、各部門で話し合いを行った。

・サービスマナーの研修の開催（28・29・30年度）

サービスマナーインストラクターを養成し、職員の意識向上ホスピタリティマインド育成を図るために、全職員対象にサービスマナー基礎研修、実践研修を開催する。

《4. 取り組みの結果》

・身体拘束廃止。身体拘束ゼロを継続している。

・スピーチロック（言葉による拘束）が認識され、スピーチロックを意識した適切なケアの提供が実践されている。

・不適切ケア防止のための職場環境改善に全部門が取組んでいる。

・職員全体のサービスマナーの重要性の共通理解と意識向上が図られ、職員間の挨拶や声掛けが円滑になっている。

・法人内でも、スピーチロックゼロ・サービスマナー向上への取り組みと言えば「糶谷」との評価を得ており、法人研修等でも実践を発表（29年9月、30年2月）している。

《5. 考察、まとめ》

「権利擁護向上委員会」が中心となり、身体拘束廃止からスピーチロック廃止、不適切ケア防止に継続して取組む中で、「職場環境の改善」や「認知症や精神疾患への理解」「サービスマナーの見直し」等、他の委員会や会議体と連携して実践してきた。職員主体の委員会活動が職員のやりがいに繋がり、離職率（5年間）4.5%と職員の定着にも繋がっている。

事業所の基本方針「利用者の思いを尊重し心に添ったケアを実践していきます」を遵守し実践するためにも不適切ケア防止への取り組みを継続して行っていく。

《6. 倫理的配慮に関する事項》

なお、本研究(実践)発表を行うにあたり、ご本人（ご家族）に口頭にて確認をし、本発表以外では使用しないこと、それにより不利益を被ることはないことを説明し、回答をもって同意を得たこととした。

《7. 参考文献》

（公財）東京都福祉保健財団高齢者権利擁護支援センター作成「虐待の芽チェックリスト」
認知症介護研究・研修仙台センター「介護現場のためのストレスマネジメント支援テキスト」

《8. 提案と発信》

安心して当事業所のサービスをご利用頂き、利用して良かったと評価される信頼できる事業所として、「利用者の自尊心を傷つけない、スピーチロック廃止を目指す」「全職員が意識してサービスマナー向上への取り組みを継続実施する」「全職員が権利擁護を意識してケアが実践できる職場環境を目指し、改善策の提案や職員の意識づけに取組む」

『継続は力なり』を信じて活動（取組み）を続けていきたい。